

災害支援ナースの活動報告

七尾市矢田郷コミュニティセンターに派遣：初陣：1/15～1/18

兵庫医科大学病院 熱田恵美

七尾市は、電気は復旧していたが2万世帯以上が断水継続、余震が不安等の理由で200名程の方が避難されていた。施設の外壁損壊はなく、制限下で水道使用可、暖房は効いていた。

前隊からの引継ぎから、避難者一覧がなく情報が全くとれていない方もいること、健康ニーズを持つ避難者が隠れている可能性があることが分かった。また避難所のラウンドからトイレ掃除や換気は避難者の一部で実施されていたが、環境改善の余地があり、居住区は衛生管理の面から、土足と内履きのエリア分けが必要であった。清潔ニーズは、特に車いすの方は着替え・入浴はできていない状況があった。

そこでペア看護師と話し合い、前隊の活動を引き継ぎ健康管理、感染対策等を行いつつ、避難者一覧作成、健康ニーズ拾い上げを優先事項として取り組んだ。他の支援者と情報共有する中で「足並みをそろえる必要がある」と感じ、定期ミーティングの開催を施設管理者に提案し、コミュニティセンタースタッフ・七尾市ボランティアスタッフ・七尾市・七尾市保健師・高知県保健師・名古屋市・ボランティア介護士等で毎朝「コミセン会議」を開催することになった。その結果、避難者一覧が完成して健康ニーズ把握が可能となり、土足・内履きエリア分けは「ドキン（土禁）ちゃん大作戦」と命名して実施に向けて会議を重ね、送迎付き入浴支援が開始された。「災害支援ナースによる健康相談会」を開催すると計測を希望した方の多くが高血圧で、内服確認や受診勧奨を行った。施設スタッフも2名の方が高血圧で、休息や水分摂取など生活指導を行った。乳幼児の家族用区画では労をねぎらいながら皮膚トラブルの確認を行い、緊急地震速報の音でパニックになる子の親にはPFAに沿った説明等を行った。

